

事業名称	山形の文化遺産を世界に発信するプロジェクト		
実行委員会	山形文化遺産活用事業実行委員会		
中核館	山形大学附属博物館		
	住所	〒990-8560 山形市小白川町1-4-12	
	TEL	023-628-4930	FAX 023-628-4668
	ホームページ	hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	
構成団体	山形県立博物館、山形県郷土館「文翔館」（重要文化財「山形県旧県庁舎及び県会議事堂」）、公益財団法人山形美術館、公益財団法人山形市文化振興事業団山寺芭蕉記念館、山形市国際交流協会、チェントロ・ポルティコ研究会、奥の細道マイスターの会、月山ジオパーク推進協議会、		
事業開始時点の課題分析	<p>厳しい自然環境と共存し豊かな文化を育んできた山形県内には先人たちの叡智を物語る文化遺産が豊富にある。それらを活用した地域活性化事業は各所で推進されており、一定の成果をあげている。しかし、国際化については緒に就いたばかり。県内の博物館には少なくはない役割が期待されているが、人的資源および予算の関係で果たし切れていないと嘆息を覚える。この現状を打破すべく、本事業の中核館を担う山形大学附属博物館は山形市内に所在する博物館および市民団体と実行委員会を組織し「山形の文化遺産を世界に発信するプロジェクト」を立ち上げた。平成 28、29 年度は構成団体が各々の特長を活かし、山形の文化を世界に発信する基盤の構築と構成団体の連携を強化する事業を推進した。その成果の一つとして、山形市はユネスコの創造都市ネットワークへの加盟があげられる。無論、本実行委員会の力は微々たるものであるが、市民の盛り上がり的一端を担うことができたと自負する。この流れをより大きなものにして、創造都市間の交流に取り組む山形市とともにさらなる事業展開を進める必要がある。また交流先としては、これまで交流をすすめてきたボローニャがふさわしい。また、平成 29 年度に実施した奥の細道広域ボランティアガイド養成講座および多言語情報発信サイトの構築により、本実行委員会はインバウンドの受け皿であるホテル協会などの民間企業、市民団体および山形市国際交流協会との接点を持ちえた。行政・民間企業・市民団体と協働した山形の文化遺産を世界に発信する事業展開に取り組む下地は整いつつあると分析する。</p>		
事業目的	<p>本事業は、山形県内に所在する文化遺産を世界に発信するため平成 28、29 年度にかけて形成してきた基盤をさらに発展させることを目的とする。</p> <p>基盤とは3つある。まず、文化遺産が内包する情報を集約することである。魅力ある文化遺産は歴史、民俗だけでなく、自然科学においても研究対象となる。これら成果を集約し、発信する情報の質の向上に努めていく。次に、文化遺産の情報を国際的に発信するツールづくりである。平成 28、29 年度事業の実施によって連携関係を構築した山形市の国際交流担当および民間企業、市民団体と連携して伝達ツールを開発する。最後に、人材の育成である。国際化とは単に外国人観光客を増やすことではない。異なる文化背景をもつ者同士が相互理解を深め、新たな協力関係を築き、新たな価値を創造していくことである。平成 29 年度に創造都市ネットワークへの加盟を果たした山形市にとって、山形の自然・歴史・文化に深い理解を持ち、自らの実感をもって世界に向けて情報を発信できる、国際交流を担う人材が不可欠である。中核館は大学博物館という特性を活かし、市民および大学生に対して積極的な働きかけを行い、発信力のある人材育成を行う。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>本事業は平成 28 年度から 3 カ年計画で実施してきたが、28、29 年度の活動によって形成された基盤を活かすとともに、29 年度のユネスコ創造都市ネットワークへの山形市の加盟などの状況の変化を鑑みて、下記のとおり、6 カ年計画に変更し、実施するものとする。</p> <p>初年度（H28（2016））山形市、市内文化施設および市民団体との連携形成に着手 2 年度（H29（2017））各団体との連携強化、多言語情報発信サイト構築 3 年度（H30（2018））官・民・学が一体となった創造都市やまがたの情報発信 4 年度（H31（2019））山形国際ドキュメンタリー映画祭開催に合わせた情報発信 5 年度（H32（2020））東京オリンピックに合わせた情報発信 6 年度（H33（2021））民間企業および市民団体と協働した自主事業へ転換</p> <p>平成 30 年度は一昨年度、昨年度の蓄積を元に「映像文化創造都市やまがた」に相応しい、映像を核とした情報発信および国際交流事業を官・民・学が一体となって実施する。平成 31 年度は情報発信の進化をすすめるとともに、山形国際ドキュメンタリー映画祭 30 周年記念展示の関連行事を実施する。平成 32 年度は、それまでの事業成果をもとに東京オリンピックに合わせた情報発信を実施する。翌平成 33 年度には、民間企業および市民団体と協働した自主事業への転換を図る。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 □イ ユニークベニューの促進 ■ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 ■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> □ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 ■イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 □ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 □エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 □イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、中核館である大学博物館が、地域の博物館および自治体、民間企業、市民団体と連携関係を構築し、地域の課題解決に柔軟に取り組むことによって、博物館の社会的な使命を果たすことを目的としている。事業開始から 3 年目を迎える本年は、2 年間をかけて構築してきた博物館および諸団体の連携関係をさらに発展させることができた。</p> <p>具体的には、山形の歴史文化および博物館にかかる情報を観光情報とともに外国人観光客向けに発信するサイトの構築によって、山形市内の博物館のみならず、国際交流協会・ホテル協会・観光客の迎え手である店舗経営者との連携関係が構築できたことである。中核館が大学博物館であることをいかした、留学生の参画もあげられるであろう。この事業を通して、中核館は地域文化の発信のコーディネーターとしての実績を積み、その役割を</p>

果たすことができました。加えて、映像文化都市山形市と、山形市の代表的な文化的コンテンツである松尾芭蕉・奥の細道・山寺に関する情報発信を山寺芭蕉記念館とそれを支援するボランティアガイドと共に進めることができました。その成果は山寺芭蕉記念館の台湾人旅行者の急増となって表れた。(2013年度 80人⇒2018年度 786人) 今後は来館者の満足度を高めるさらなる工夫が必要である。また、補助事業の対象外ではあるが、創造都市間の交流として、山形大学は2013年からイタリアのボローニャとの交流を進めており、ついに本年、中核館とボローニャ大学博物館と交流協定を締結するに至った。これは中核館と市民団体が日本文化の発信を中心に地道に交流活動を続けてきた成果である。今後は、連携機関との協力体制を密にするとともに、より博物館の専門性を活かした情報発信を推進していく。その下地は十分できつつあると考える。

【事業実績】

本事業の目的は「博物館が自治体、民間企業、市民団体などと協働して地域の課題に取り組むモデル」の構築であり、それはある程度達成した。まず、1. (1)①として、台湾華語(中国語繁体字)、タイ語、英語、韓国語および日本語により、山形の観光情報とともに歴史および博物館について発信するサイト(My favorite things about Yamagata

<https://my-favorite-things-about-yamagata.com/>)を構築した。その過程で山形市国際交流協会と山形市ホテル協会からは外国人の嗜好やニーズについて提供いただき、山形市内の博物館および歴史に関する情報が魅力的に伝わる工夫(外国人が好むサイトデザインおよびホテルから宿泊客に観光情報の一つとして博物館を勧めてもらうためのパンフレットやPRカードの作成・配布など)をすることができた。また、観光客が立ち寄る店舗とも直接情報交換できるようになり、次年度に予定している山形市内文化施設スタンプラリーへの協力もとりつけた。この協働関係をさらに強化していくためサイトの掲載情報の拡充に努めていく予定である。また、1. (1)②の奥の細道多言語サイト(細道・より道・松尾芭蕉 奥の細道をより深く知るために

<https://basho-yamadera.com/>)は「山寺芭蕉記念館ボランティアガイド」がFacebookと動画を用いて情報発信できるようにリメイクし、博物館とそれを支える市民団体の協働関係を強化することができた。最後に、2. (1)①として、東北芸術工科大学映像学科の協力を得て、「山寺芭蕉記念館ボランティアガイド」に映像制作講座を行った。受講者はすぐに短い動画を制作できるようになり、上述のサイトで公開できるようにした。いずれの事業も、急速に変化する状況に柔軟に対応しつつ、本事業全体の目的であるモデル構築を着実に進めていくものであった。



My favorite things about Yamagata



細道・より道・松尾芭蕉



映像制作講座